http://decfamily.p1.bindsite.jp/2012/

We 15R

No.038　12/06/11

被災に向きあう

みちのくキャラバンの●●さん（日比谷の卒業生）が、昨年の７月後半に気仙沼でボランティアに参加していたと言っていたが、ちょうど同じ時期に、私たち夫婦も女川町に出かけていた。君たちがレポートした七ヶ浜町よりももう少し北に行くと、日本三景で有名な松島があり、その先が石巻市、そして、そこからさらに車で小一時間海沿いに北上すると女川町となる。

ボランティアに参加した訳ではなく、未曾有の被害の実態を見てみたいという単純な動機ではあったが、やはり実際に被害の状況を目にしたことはイイ経験であったと思う。津波に襲われた町を、高台にある病院の前庭から望むと、基礎部分だけ残して上物が一切なくなった土地が広がっており、所々に横倒しになったままのビル（３～４階建て）が転がっていた。ちょっと信じられないような光景であったが、これを目の当たりにしたことで、ニュース映像などを通して伝えられる現地の様子が、いくらかでも実感を伴ったものとして受け止められるような気がする。

＊

今回の体験活動の感想を読むと、「一日なら我慢できるが、被災地の皆さんは、あのような状況……食事も十分でなく、床に毛布を敷いただけの大人数が詰め込まれた空間で、水も電気も自由にならないまま、プライバシーも守られない状況……で暮らすといったことをずっと続けなければならなかったわけで、私にはとても耐えられそうにない」といったものが多かったが、確かにその通りだろう。その意味では、君たちも被災について、いくらかでも実感を伴って受け止められるようになったのではないかと思う。

＊

先週末には大飯原発の再稼働が決まった。本当にイイのだろうか、本当に電力が不足するのだろうか、と誰もが思う。原発の専門家に聞いてみたいが、彼らが信頼に足る人物ではないこともはっきりしてしまった。

原発を建設した（原発に莫大な設備投資した）以上、「元を取る」まで稼働してもらわなければ、電力会社は立ちいかなくなるのであろう。廃炉となれば、それにも当然莫大な費用が必要となるし、使用済み核燃料の安全な保管・処理にも多大な労力が必要となる。電力が足りない云々といっているが、その背景には、このような実際上の問題が山積しているのである。もし、これを電力料金の値上げでまかなうとすれば、それこそ電力を大量使用している産業界にとっては大きな負担増とならざるを得ず、それは国際競争力の低下へと繋がり、ひいては日本の産業の空洞化がますます進行する事態を招くことになりかねないのである。

＊

被災の問題は、「我々日本人の日常」がどのようなものか、身のまわりの生活といった小さな観点からも、日本人のあり方といった大きな観点からも課題を突きつけている。我々は真剣に向きあわなければならない。